

事故予防

3歳以上になると子どもの行動範囲が広がり、転落や交通事故、溺水などさまざまな事故に^あう危険が高くなります。

1. 子どもを1人で家や車に残さないようにしましょう。

子どもは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。



2. 自動車に乗るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

たとえゆっくり走っていても衝撃は予想以上に大きく、大人の手力では支えきれません。



3. 入浴後、浴槽のお湯は抜きましょう。

子どもが簡単に浴室に入れないようドアにカギをつけたり、子どもだけで浴室では遊ばせないようにしましょう。

4. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは大人のまねをしがります。薬や化粧品は誤飲事故につながります。



5. タバコや灰皿は子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもはタバコ1本の半分程度のニコチンが体内に吸収されると、命を落としてしまう危険があります。

6. ピーナッツやアメ玉などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく窒息事故につながります。



7. ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが手を触れないようにしましょう。

子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。



8. 子どもがペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走りまわらないよう注意しましょう。

壁にぶつかったり転んだりしたときに口の中を切ったり喉をついたりする危険があります。

9. 子どもが外遊びをするときには、遊具の安全な乗りかたを教えましょう。また、必ず大人が付き添いましょう。

子どもは思いがけないところに移動したり、すべり台やブランコなどで決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとします。安全に作られた遊具でも遊び方を間違えると事故の引き金となります。

また水遊びでは、子どもから目を離すと大変危険です。

川や池、用水路などでは1人で遊ばせないようにしましょう。



10. ベランダや窓のそばに踏み台になるようなものを置かないようにしましょう。

ベランダや窓の向こうの景色に子どもは興味津々です。転落は生命にかかわる事故につながります。

事故が起ってしまった時あわてないためにも、かかりつけの病院や緊急時の連絡先を電話のそばに貼っておきましょう。